

## 岩手県金融経済概況

### 1. 概況

県内経済は、製造業において、電気機械や輸送用機械等を中心として高水準の生産を続けており、またこうした製造業の好調業種を中心に積極的な設備投資が計画されている。一方、個人消費は、一部に猛暑効果やオリンピック需要に伴う盛り上がりが見られたものの、雇用・所得環境に捗々しい改善がみられない中、基調としてはなお弱めの動きが続いているほか、公共投資の減少や住宅投資の低迷により、建設・住宅関連も低調に推移しており、全体としてみれば、製造業と非製造業の業種間格差を伴いつつ、一進一退の動きとなっている。

### 2. 最終需要

#### (1)個人消費

個人消費は、猛暑やオリンピック需要により、季節商品やデジタル家電製品などの売上げが増加するなど、一時的に盛り上がりを見せる局面も見られたが、百貨店・量販店の売上げにおいて主力の衣料品の動きが鈍く、中元商戦も盛上がりに欠けるなど、全体としてみれば、なお弱めの動きが続いている。

#### (大型小売店売上高)

百貨店・量販店の売上げは、猛暑に伴い身の回り品、飲料品などの売上げが伸長したが、主力の衣料品の動きが総じて鈍く、基調としては弱めの域を脱していない。この間、中元商戦も購入単価・点数とも前年並みに止まるなど、総じてみれば盛上がりに欠ける結果となった。

#### (家電量販店売上高)

家電量販店の売上げは、猛暑効果やオリンピック需要により、エアコン等季節商品や薄型テレビ、DVDレコーダーを中心に一時的な盛り上がりを見せた。もっとも、ウェイトの高いパソコンが引き続き低迷しているほか、デジタル家電の販売ペースも足もと増勢が鈍化してきている。

(乗用車新車登録台数)

7月の乗用車新車登録台数は、小型車、普通車がなお前年を下回っているもの、新型車の投入効果等により持直しの傾向にあるほか、軽自動車も堅調に推移していることから、全体では4か月振りに前年を上回った。

(旅行取扱高)

旅行取扱高は、国内旅行の増加を中心に全体として持直しの傾向にある。

(2) 住宅投資

7月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年比増加し、全体でも5か月ぶりに前年を上回った。

(3) 公共投資

公共工事請負金額は、予算規模の縮小を背景として減少傾向が続いている。

3. 生産動向

生産は、需要好調な電気機械や輸送用機械、設備関連を中心にフル操業を継続し、高水準の生産が続いている。一方、建設関連では引き続き低水準の生産が続いている。

(電気機械)

半導体・電子部品は、カメラ付き携帯電話やデジタル関連製品向け出荷の好調からフル操業が続いている。

(輸送用機械)

完成車は、北米向け高級車の出荷好調から、高操業を続けている。また、自動車部品でも、乗用車メーカーからの受注が増加しているほか、トラック向けもアジア向け輸出が好調なことから、高操業を続けている。

(設備関連)

工作機械や空気圧機器では、自動車、半導体メーカー向け出荷が好調なことから、フル操業を続けている。

(消費関連業種<紙・パ、食料品、精密機械>)

紙・パ(段ボール原紙)は、猛暑効果による飲料品向け出荷が好調であることから、高水準の生産を続けている。食料品(缶詰等)については、品目によってばらつきはあるものの、全体として堅調な生産を続けている。精密機械(時計部品)は、輸出市場に

おける競合等から、操業度を幾分引下げている。

(建設関連)

線材が、中国向け輸出の好調から基調として高水準の生産を継続しているが、合板、セメントやコンクリート二次製品など多くの品目では、公共投資の減少等を背景として、生産能力をかなり下回る低水準の生産が続いている。

4. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、7月の有効求人倍率(季節調整後)は、卸・小売業での大口の新規求人もあって、前月に引き続き改善した。一方、所得面では、高操業を続けている輸送用機械や電気機械等の一部業種で所定外給与の増加が見込まれるものの、企業の人件費抑制スタンスに変化がみられないことから、全体としてみれば捗々しい改善をみていない。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、7月については、件数は前年並みに止まったが、負債金額は前年を上回った。8月については、件数、負債金額とも前年を下回り、落ち着いた動きとなっている。

6. 金融動向

預金は、個人預金が堅調に推移していることから、全体として底固い動きを続けている。

貸出は、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移しているが、法人向けが引き続き低迷していることから、全体としては低調に推移している。

以上